



国際会議 海外派遣・留学 主要外国人の来訪 国際協力協定 解体核プルトニウム処分協力

1. 国際会議

1.1 国内

期 間	開 催 場 所	会 議 名 及 び 内 容
2001年 10月3日	敦 賀	「日露FBR協力」 本社事業計画部の原子力事情調査の一環としてBN-600のオシユカノフ技師長等を招きBN 600におけるNa流速,温度等の計測技術に関する情報交換とBN 600の運転経験に関する講演会を開催した。
10月29日～10月30日	東 海	JNC/CEA(仏国原子力庁)先進技術に関する協力協定に基づく「長寿命放射性核種分離技術に関する第10回日仏専門家会議」 2001年の研究成果を報告するとともに次年度の研究内容につき打合せを実施した。
10月29日～11月2日	東 海	「JNC/KRI(韓国原子力研究所)第2回ワークショップ」 地層処分研究開発に関する両研究所の最新の成果や今後の計画につき情報交換を行った。
11月28日～11月30日	東 濃	「JNC/NAGRA(スイス放射性廃棄物処分全国組織)第3回技術検討会議」 「超深地層研究所計画に関する技術的支援」に関して試錐調査の技術的評価を実施するとともに研究内容につき打合せを実施した。
12月3日～12月7日	大 洗	「カザフNNC(カザフスタン国立原子力センター)/JNC第15回技術会議」 カザフNNCとの間で実施しているEAGLE共同研究契約(IGR試験研究)につきプロジェクトの進捗状況の確認及び討議を実施した。

1.2 国外

期 間	開 催 場 所	会 議 名 及 び 内 容
2001年 10月29日～10月31日	ロシア オブニンスク	「BN 600の安全解析に係る日露専門家会議」 サイクル機構から解析結果を提示するとともに,今後の実施内容について検討を実施した。
11月11日～11月17日	米国 DOEユッカマウンテン施設	「ANS冬季会合」 50年間にわたり蓄積された高速炉に関する知識の新しい世代への引継ぎを主題にANS冬季会合が開催され,各機関における技術情報の保存状況の紹介や技術情報の保存作業を行うための国際的な協力の枠組み作り等についての議論が行われた。
11月25日～12月2日	米国 サンフランシスコ	「第4世代原子力システムに関する国際フォーラム,液体金属技術ワーキンググループ」 第4世代の原子炉システムとして有望な概念を抽出するためのロードマップ工程等今後の作業内容について調整を実施した。
12月3日～12月5日	米国 アイダホフォールズ	「EBR ナトリウム処理・安定化に関する技術検討会議」 閉鎖プロジェクト全体計画やナトリウム処理等について打合せを実施した。
12月8日～12月16日	仏国 エクサンプロバンス	「JNC/PSN(仏国原子力安全防護研究所)第26回CABRI共同委員会及び実験計画ワーキンググループ」 CABRI RAFT炉内試験及び総合評価の進捗と成果につき協議を実施した。
12月10日～12月11日	米国 ワシントン	「JNC/DOE原子力技術分野における取り決め下における第2回合同調整会合」 協力内容の進捗レビュー及び新規協力についての検討を実施した。
12月13日～12月14日	米国 ワシントン	「JNC/DOE保障措置・核不拡散に係る研究開発協力に関する取り決め下における常設調整会合」 現在の進捗状況を確認するとともに,今後の計画について打合せを実施した。

2. 海外派遣・留学

派遣・留学先	期 間	人数	目 的
フランス フェニックス	2001年10月1日～ 2002年9月30日	1	JNC/CEA先進技術協定に基づく原子力機器の保守技術情報の交換及びプラント保守方法の検討
オーストリア IAEA	2001年10月6日～ 2003年10月5日	1	JASPAS（対IAEA保障措置支援プログラム）支援
フランス 気候環境科学研究所	2001年10月7日～ 2003年10月6日	1	ラドン及びラドン娘核種の挙動影響評価に関する研究

3. 主要外国人の来訪

訪問日	訪問場所	訪 問 者
2001年10月3日 10月4日	もんじゅ 大 洗 東 海	ロシアベロヤルスク発電所 Ochkanov 技師長
10月31日	もんじゅ	仏国CEA Colombani 長官
11月29日	本 社	ロシアクルチャトフ研究所 Velikhov 総裁

4. 国際協力協定

2001年10月から12月に調印された国際協力協定はなし。

5. 解体核プルトニウム処分協力

- (1) ロシア物理エネルギー研究所（IPPE）との共同研究契約に基づき BFS 2（臨界実験装置）から得られた臨界実験結果の解析評価を実施している。
- (2) ロシア原子炉科学研究所（RIAR）との共同研究契約に基づき解体プルトニウムを用いた先行照射試験に関し、3体の試験体をBN 600に装荷、照射試験を継続している（2001年10月現在で燃焼度8.7%）。今後、2002年3月まで照射を継続する予定である。
- (3) フェーズ1の実施に関し、下記の共同研究契約が調印され作業を実施中である。
 - ・ロシア余剰核兵器解体プルトニウムを用いた振動充填燃料製造に関わる共同研究（2001年7月27日調印、共同研究先：RIAR）
 - ・振動充填MOX燃料を装荷したBN 600ハイブリッド炉心の安全解析（2001年7月27日調印、共同研究先：RIAR）
 - ・振動充填MOX燃料を装荷したBN 600ハイブリッド炉心の安全解析に関わる共同研究（2001年8月21日調印、共同研究先：IPPE）
 - ・振動充填MOX燃料を装荷したBN 600ハイブリッド炉心の設計に関わる共同研究 [2001年9月5日調印、共同研究先：実験機械製造設計局（OKBM）]
 - ・パイパック燃料を用いたBN 600フルMOX炉心化に係る詳細作業計画と主な実施コスト評価の共同研究（2001年9月25日調印、共同研究先：IPPE）

（本社：国際・核物質管理部）